

上海に見る中国の近代化【サマリー】

木村実季

中国近代化の過程には、民族の独立と統一、日中戦争、国共内戦、社会主義化の試行錯誤など様々な段階があり、各段階における近代化の進展が帝国主義時代から冷戦時代に至るまでの国際関係と密接に関わっていた。その複雑さが中国近代化の過程を難解なものにしていると思われる。

一概に中国の近代化といっても、中国には華北・華中・華南などの経済圏があり、また沿岸と内陸、都市と農村とでは近代化を進める上での所与の条件が大きく異なる。近代化のプロセスを大掴みに把握するために「上海」という都市に視点を据えてまとめてみた。

記述の区分としては、(Ⅰ)租界の誕生から日中戦争まで、(Ⅱ)日中戦争から中華人民共和国の成立まで、(Ⅲ)中華人民共和国の成立から文化大革命の発動まで、(Ⅳ)文化大革命から改革開放まで、(Ⅴ)改革開放以降とし、トピックとしては、(Ⅰ)については「上海租界における資本主義の発達」、(Ⅱ)は「抗日期の上海」、(Ⅲ)は「社会主義改造下の上海」、(Ⅳ)は「上海における文革の展開」、(Ⅴ)は「文革後の上海」とした。